

教育目標 よい頭 よい躰 強い体

どの子ども輝き
笑顔いっぱい

とね幼だより

秋のような
澄んだ心で



とねがわようちえん

令和5年11月



教育目標から見える子どもの育ち

園長 笛木 哲

紅葉で世界がカラフルに染まってきました。無限の色々が、移ろいゆくグラデーションで、季節を紡いでいます。赤く色づいたハナミズキは、「色」で自分の「命」を教えてください。枯れゆく一本の草の葉脈にも、命が力強く宿っているのが分かります。秋の幼稚園は、単なる美しい景色ではなく、命の集合体なのだと感じさせられます。その中心にいるのが160名の子どもたちです。子どもたちの圧倒的なパワーの前では、そこまで来ている冷たく厳しい冬までが後ずさりしてしまいそうです。

さて、本園だけでなく小学校、中学校…と、学校には教育目標が必ず掲げられています。本園の教育目標は○よい頭（知） ○よい躰（徳） ○強い体（体）です。

多くの子どもたちが進学する町内小学校の教育目標は、
中山小学校 ○やる気いっぱい（知） ○やさしさいっぱい（徳） ○元気いっぱい（体）
伊草小学校 ○やさしさいっぱい（徳） ○学びいっぱい（知） ○力いっぱい（体）
つばさ南小学校 ○やさしく（徳） ○かしこく（知） ○げんきよく（体）
つばさ北小学校 ○なかよく（徳） ○かしこく（知） ○たくましく（体）
となっています。本園を含むどの学校も頭（知）、心（徳）、健康（体）を育てることを学校の教育目標に定めています。これは、教育基本法第二条に「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」と『教育の目標』が定義されていることによります。

先日、職員から「○○君は、バスがお地蔵さん（道祖神）のそばを通ると、手を合わせて『いつもありがとう』と言います」と報告がありました。手を合わせる○○君は、「お地蔵さんに守ってもらっているから」と照れながら答えたと言います。「そんなことをどうして知っているの？」と聞くと、「ママはいつもお地蔵さんのところで手を合わせて、『ありがとうございます』って言うんだ」と教えてくれたそうです。お母さんの優しい姿を見て、それを真似て自分の心を豊かにする○○君は素敵だなと思いました。小学校では道徳の教科書で心を育てますが、幼稚園で育てる心は、こうした日常の生活の中で育ちます。知育にしても小学校のように机に向かって教科書を開いて学ぶのではなく、自分の好奇心をぐんぐん広げて、時には失敗しながら遊びを通して学んでいきます。転んでも泣かなくなった年少さんは、ずいぶんたくましくなりました。



新しいお友だち

11月1日からちゅうりっぷ組に粕谷隼（はやと）さん、大井堅翔（けん）さん、谷澤弘太郎（こうたろう）さんの3名が仲間入りしました。よろしくお願いたします。これで全園児160名となりました。



お知らせ

○11月27日（月）、新しいブランコが園庭西側に設置されます。新しいブランコからは、今までのブランコとは違った景色が見えることでしょう。

子どもの「ことば」



- 芝生の上のトカゲがいることに気づいた〇君。トカゲと向かい合うと、何を思ったか「お手」と手を差し出しました。もちろんトカゲはお手はせず、ものすごいスピードで逃げてしまいました。…トカゲは犬とは違うと学んだ瞬間です。
- 英語で、ガールズチーム、ボーイズチームで分かれる場面がありました。男の子たちは「俺らは、坊主（ボーイズ）チームなんだって！！」と大盛り上がりの英語になりました。…年長ともなると語彙が増え、ユーモアのセンスも磨かれます。それとも「男の子」をネイティブが発音すると、「ポーズ」と聞こえるのでしょうか。
- 犬棒カルタを全て暗唱してしまった子が、園庭で転んで額にたんこぶをつくってしまいました。「大丈夫？ たんこぶができたね」と保育者が言うと、「目の上のたんこぶ」ですって。…切り返しがお見事！
- 年少さんの子に折り紙の腕時計を作ってあげた保育者が、「時計の針は何時がいい？」と聞く「4時がいい」と答えます。「どうして？」と聞くと、「ママがお迎えに来てくれる時間だから」と嬉しそうに答えていた。…3時のおやつよりも、ママのお迎えの方が何十倍も大切なものだと言うことが分かります。
- 帰りのバスの中の会話。「お月様を食べてみたいね」「お月様をどうやって食べるの？」「アイスのようにして食べたい」「窓を開けてスプーンでお月様をすくえばいいね」「お月様の大きさはどのくらい？」「バスに乗れないくらいの大きさだよ」「違うよ、手のひらで〇（丸）を作ったくらいの大きささ」「僕の手の手ひらに入るくらいの大きさかな」「お月さんのアイスを食べるスプーンはどうしようか？」「砂場のスコップを持っていくといいよ」「でもあれは汚いよ」「洗ってもっていけばいいんじゃない」「ねえ、お月様までどうやっていく？」「バスでは行けないなあ。そうだロケットがある」「ロケットはどこにある？」「ロケットは段ボールで作ろう。皆が乗るには大きいロケットが必要だから、たくさん段ボールを集めなくちゃね」「おやつも持って行こうよ」「どうやって持って行く？」「ロケットの下にロープを垂らしておやつをそこにつけて運んだらいいよ」「お菓子を食べたらロープを伝わって降りて行って食べるんだ」「それは面倒くさいよ」…子どもたちの果てしない会話はどこまでも続きます。きっと月に付く前にお菓子は食べきってしまうし、お月様アイスのことは忘れてのことでしょう。

